

地域看護学

1 構成員

	平成21年3月31日現在
教授	2人
准教授	0人
講師（うち病院籍）	1人（0人）
助教（うち病院籍）	2人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
特任教員（特任教授，特任准教授，特任助教を含む）	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	0人
合 計	5人

2 教員の異動状況

- 巽 あさみ（教授）（H16. 4. 21～現職）
鈴木みずえ（教授）（H20. 8. 1～現職）
大塚 敏子（講師）（H20. 4. 1～現職）
菊地 慶子（助教）（H19. 4. 1～現職）
水田 明子（助教）（H20. 4. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成20年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編（4編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	1編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	6編（6編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	6編（6編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Suzuki M, Kanamori M, Yasuda M, Oshiro H. One-year follow-up study of elderly group-home residents with dementia. American Journal of Alzheimer's Disease & Other Dementias. 2008, 23(4): 334-343, 2008
2. 鈴木みずえ, 水野裕, BrookerDawn, 住垣千恵子, 坂本涼子, 内田敦子, グライナー智恵子, 大城一, 金森雅夫, Quality of life評価手法としての日本語版認知症ケアマッピング (Dementia Care Mapping:DCM)の検討 Well-being and Ill-being Value (WIB値)に関する信頼性・妥当性, 日本老年医学会雑誌, 45(1), 68-76, 2008
3. Toshiko Otsuka, Mikako Arakida: Influence of environmental factors on the smoking and smoking intention in high-school students of six prefectures in Japan. Japanese Journal of Health and Human Ecology 74(3): 114-128, 2008

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 山本則子, 岡本有子, 辻村真由子, 金川克子, 正木治恵, 鈴木みずえ, 山田律子, 鈴木育子, 永野みどり, 緒方泰子, 岡田忍, 本田彰子, 赤沼智子, 根本敬子, 深田順子, 石垣和子, 高齢者訪問看護の質指標開発の検討 全国の訪問看護ステーションで働く看護師による自己評価, 日本看護科学会誌, 28(2), 2008.
2. 深堀敦子, 鈴木みずえ, グライナー智恵子, 磯和勅子, 地域で生活する健常高齢者の介護予防行動に影響を及ぼす要因の検討, 日本看護科学会誌, 29巻(1), 15-24, 2009

インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 島岡みどり, 蛭田秀一, 小野雄一郎, 堀文子, Bor je Rehn, Gunnevi Sundelin, 盧偉華, 施彬, 巽あさみ, 今枝敏彦, 飯田忠行, 日中瑞 3 か国の社会福祉関連労働における労働環境・条件と作業負担に関する比較研究 平成16年度～平成19年度科学研究費補助金 基盤研究(B) 海外学術 研究成果報告書, 2009年2月

(3) 総 説

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 征矢野あや子, 鈴木みずえ, 認知症における転倒予防戦略, Clinical Calcium, 18(6), 776-783, 2008
2. 鈴木奈緒子, 鈴木みずえ:認知症高齢者の転倒・転落事故予防 急性期医療施設における多職種による転倒・転落予防策, 認知症介護, 10(1), 55-62, 2009
3. 村山明彦, 小松泰喜, 鈴木みずえ, 認知症高齢者の転倒・転落事故予防 認知症の行動・心理症状 (BPSD) に着目した転倒予防, 認知症介護, 9(4), 105-112, 2008

4. 須山良江, 鈴木みずえ, 多職種による連携と認知症高齢者のパーソン・センタード・ケアの実践による転倒予防, 臨床老年看護, 15(6), 30-35, 2008
5. 鈴木貴文, 鈴木みずえ, 認知症高齢者の転倒・転落事故予防 事故予防対策計画書を用いた転倒予防, 認知症介護, 9(3), 76-81, 2008
6. 林静子, 鈴木みずえ, 認知症高齢者の転倒・転落事故予防, 認知症介護, 9(2), 18-24, 2008.
インパクトファクターの小計 [0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 鈴木みずえ, 介護予防事業としての転倒予防, 武藤芳照編集: 転倒予防医学百科, 189-190, 2008, 日本医事新報社
2. 鈴木みずえ, 認知症高齢者はQOLを訴えられるか? 道又元裕, ケアの根拠ケアの根拠看護の疑問に答える151のエビデンス, 日本看護協会, 125, 2008
3. 鈴木みずえ, 認知症高齢者のアクティビティケアは効果があるのか? 道又元裕, ケアの根拠看護の疑問に答える151のエビデンス, 130, 日本看護協会, 127, 2008
4. 鈴木みずえ, 認知症高齢者の転倒は予防できるか? 道又元裕, 132, ケアの根拠看護の疑問に答える151のエビデンス, 日本看護協会, 2008, 看護の疑問に答える151のエビデンス,
5. 鈴木みずえ, 転倒予防, 石垣和子, 金川克子監修, 山本則子編集, 高齢者訪問看護の質指標ベストプラクティスを目指して, 89-101, 日本看護協会出版会, 2008

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 小松泰喜, 鈴木みずえ, 転倒予防電話相談119, 武藤芳照編集: 転倒予防医学百科, 319-321, 2008, 日本医事新報社

(6) その他

1. 巽あさみ, 看護系大学・研究所からのメッセージ, 浜松医科大学医学部看護学科地域看護学講座について, 保健師ジャーナル, Vol.64. No.11. pp1073. 2008

4 特許等の出願状況

	平成20年度
特許取得数 (出願中含む)	0件

5 医学研究費取得状況

	平成20年度
(1) 文部科学省科学研究費	5件 (506万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)

(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0件 （0万円）
--------------------	----------

(1) 文部科学省科学研究費

巽あさみ（代表者）基盤研究（C）一般 女性労働者が健康に働き続けられるための職場支援システム開発に関する研究，平成17年度～平成20年度（420万円，内平成20年度は65万円）

巽あさみ（分担者）生活習慣病予防に対する保健指導の横断的な質の評価-評価指標と方法の開発-平成20年4月～平成22年3月，30万円 代表者，荒木田美香子，国際医療福祉大学

鈴木みずえ（代表者）基盤研究（B） EBNに基づいた認知症高齢者のための日本型リスクマネジメントの開発と理論化 270万円

鈴木みずえ（分担者）基盤研究（A） 高齢者訪問看護質指標を用いたインターネット訪問看護支援システムの有効性検討 15万円 代表者，山本則子，東京医科歯科大学

大塚敏子（代表者）若手研究 スタートアップ，「高校生の喫煙行動へのポピュレーションアプローチおよびリスク別アプローチの効果検討」，平成20年～21年度，126万円

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	1件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	5件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	14件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

鈴木みずえ「認知症高齢者の転倒予防」，日本老年看護学会第13回学術集会，石川，平成20年11月9日

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

巽あさみ，第54回東海公衆衛生学会 平成20年7月26日，静岡

巽あさみ，第39回日本看護学会・学術集会・地域看護，平成20年10月11日，静岡

鈴木みずえ，第34回日本看護研究学会学術集会，平成20年8月21日，神戸

鈴木みずえ，第5回転倒予防医学会研究集会シンポジウム，東京

大塚敏子，第39回日本看護学会・学術集会・地域看護，平成20年10月11日，静岡

5) 一般発表

口頭発表

1. 杉山友理, 巽あさみ, 山崎加帆里, 産業看護職に対する認識についての研究～看護職と直属上司の比較を通して～, 第54回東海公衆衛生学会, 2008.7, 静岡
2. 山崎加帆里, 巽あさみ, 杉山友理, 思春期の男子をもつフルタイムで働く女性労働者の仕事と子育てに関する困難について, 第54回東海公衆衛生学会, 2008.7, 静岡
3. 坪井宏仁, 榊原啓之, 浜本玲子, 鈴木敦美, 小林公子, 熊沢茂則, 下位香代子, 巽あさみ, 脂質過酸化と抑うつとの関連性について-医療・介護職員の調査から-, 第54回東海公衆衛生学会, 2008.7, 静岡
4. 浅井紫, 住垣千恵子, 大久保直樹, 伊藤貴子, 藤崎あかり, くけ川牧子, 秋山聖, 金山由美子, 三浦久幸, 鈴木みずえ, 意思疎通が困難で著しいBPSDを有する認知症患者への音楽療法による効果 身体精神機能, 生活機能, BPSDに及ぼす影響, 日本認知症ケア学会誌, 7巻2, 295, 2008

ポスター発表

1. 巽あさみ, 事業所管理監督者に対する短時間での積極的傾聴研修の評価 (2), 第81回日本産業衛生学会, 2008.6, 札幌
2. 住吉健一, 巽あさみ, 川口仁美, 佐野雪子, 事業所管理監督者に対する短時間での積極的傾聴研修の評価 (1), 第81回日本産業衛生学会, 2008.6, 札幌
3. 宮崎雅世, 巽あさみ, 小規模事業所の健康支援のニーズについて, 日本地域看護学会第11回学術集会, 2008.7, 沖縄
4. 三浦真美, 巽あさみ, 学童期の子どもをもつ看護師の仕事と子育てに関する葛藤, 日本地域看護学会第11回学術集会, 2008.7, 沖縄
5. 征矢野あや子, 鈴木みずえ, 大城一, 泉キヨ子, 平松知子, 本間昭, 金森雅夫, 斎藤真, 武藤芳照, 認知症高齢者の二足歩行とその関連要因, 日本老年看護学会第13回学術集会抄録集, p.132, 2008.11, 金沢
6. 磯和勅子, 友利千代乃, 内田敦子, グライナー智恵子, 沢井史穂, 村島正幸, 鈴木みずえ, 地域高齢者を対象とした下肢筋力強化運動の定着を根ざした介入方法, 日本老年看護学会第13回学術集会抄録集, p.133, 2008.11, 金沢
7. 深堀敦子, 鈴木みずえ, グライナー智恵子, 磯和勅子, 地域高齢者に対する主観的幸福感に着目した介護予防介入の検討, 第28回日本看護科学学会学術集会講演集418, 2008.11, 金沢
8. 大塚敏子, 荒木田美香子, 有馬志津子: 高校生の将来の喫煙意思に関連する要因の検討. 第55回 日本学校保健学会 (2008)
9. 新家一輝, 酒井佐枝子, 永井利三郎, 荒木田美香子, 藤原千恵子, 新田紀枝, 伊藤美樹子, 遠藤淑美, 大塚敏子, 奥野裕子, 杉浦圭子, 横川しのぶ, 高間さとみ「親と子の心を支えられる人材育成教育」第1報: 発達障害についての理解度 第67回 日本公衆衛生学会 (2008)

10. 奥野裕子, 永井利三郎, 酒井佐枝子, 荒木田美香子, 藤原千恵子, 阿曾洋子, 新田紀枝, 伊藤美樹子, 遠藤淑美, 新家一輝, 大塚敏子, 杉浦圭子, 横川しのぶ, 高間さとみ 現代GP「親と子の心を支援できる人材育成教育」～ペアレントトレーニングを用いて 第67回 日本公衆衛生学会 (2008)
11. 永井利三郎, 酒井佐枝子, 藤原千恵子, 荒木田美香子, 阿曾洋子, 新田紀枝, 遠藤淑美, 伊藤美樹子, 新家一輝, 奥野裕子, 大塚敏子, 横川しのぶ, 高間さとみ, 杉浦圭子. 現代GP「親と子の心を支援できる人材育成教育の構築」の取り組み 第55回 小児保健学会 (2008)
12. 荒木田美香子, 大塚敏子, 林真由美, 松島可苗, 奥野裕子, 綾部明江, 佐藤潤, 臺有佳, 相原洋子. 「刺激希求傾向と性教育前後の中学生の性行動の意識との関係」第67回 日本公衆衛生学会 (2008)
13. 菊地慶子, 村田千代栄, 早坂信哉, 野田龍也, 柴田陽介, 尾島俊之. : 社会生活基本調査による若年層の深夜における食事行動. 第67回日本公衆衛生学会総会, 2008年11月, 福岡
14. 菊地慶子, 村田千代栄, 早坂信哉, 野田龍也, 尾島俊之. 社会生活基本調査による年齢階級別食行動の記述疫学. 第54回東海公衆衛生学会学術大会, 2008年7月, 静岡

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 異 あさみ 日本産業衛生学会 代議員
- 異 あさみ 日本産業衛生学会 東海地方会 理事
- 異 あさみ 東海公衆衛生学会 理事
- 異 あさみ 日本看護医療学会 査読委員
- 異 あさみ 日本産業ストレス学会 編集幹事
- 異 あさみ 日本産業衛生学会 産業精神衛生研究会世話役
- 異 あさみ 日本産業衛生学会 職場ストレス研究会 ワーキングメンバー
- 異 あさみ 日本産業衛生学会 就労女性健康研究会世話役
- 鈴木みずえ 日本看護科学学会 評議委員
- 鈴木みずえ 日本看護研究学会 評議委員・査読委員
- 鈴木みずえ 日本老年看護学会 評議委員・日本老年看護学会誌編集委員
- 鈴木みずえ 日本認知症ケア学会 評議委員・査読委員
- 鈴木みずえ 日本認知症ケア学会 認知症ケア専門士論文審査委員
- 鈴木みずえ 転倒予防医学研究会 世話人・学術委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	1件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Japanese Journal of Nursing Science (Japan Academy of Nursing Science) 1回

9 共同研究の実施状況

	平成20年度
(1) 国際共同研究	1件
(2) 国内共同研究	3件
(3) 学内共同研究	2件

(1) 国際共同研究

Dawn Brooker (University of Bradford, UK) 認知症ケアマッピングを使用したケアの質の向上

(2) 国内共同研究

斎藤真 (三重県立看護大学) 認知症高齢者のヒッププロテクターの開発

奥百合子, 常田佳代 (三重県立看護大学) 転倒リスクマネジメントに関する全国調査

水野裕 (いまいせ心療センター・認知症介護研究研修大府センター) 認知症ケアマッピングを使用したケアの質の向上

(3) 学内共同研究

巽あさみ, 野澤明子, 大塚敏子, 水田明子;生活習慣病予防に対する保健指導の質の評価に関する研究

鈴木みずえ, 倉田貞美, 安田孝子, 牧野公美子, 山本恵美子: 認知症高齢者の転倒予防に関するアクションリサーチ

10 産学共同研究

	平成20年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 短時間で行うIEL (Inventive Experiential Learning) 法によるアクティブリスニングの評価
労働者のうつ病等予防するには事業所の管理監督者は重要なキーパーソンである。傾聴能力を取得する目的でIEL法を用いて299人に2.5時間で傾聴技術研修を実施する介入研究を行った。結果、ALAS (Active Listening Attitude Scale) による「聴き方」の得点は研修後に上昇し、6か月後も効果が持続した。「聴く態度」は有意差はなかったが研修前よりは高い数値を示した。また6か月後に研修で学んだスキルを実施しているものが34.5%であり、職場が明るくなった。相談鞆が増加したなどの効果があった。今後看護職が実践可能な具体的なプログラムの開発につなげていく予定である。

(巽あさみ, 住吉検知, 川口仁美, 佐野雪子)

2. 生活習慣病予防に対する保健指導の質の評価に関する研究

平成20年度から開始された特定保健指導はその質の評価指標の開発が待たれているところであ

る。保健指導の対象者の健康管理能力を包括的に把握するための指標である Health Education Impact Questionnaire の日本語版を用いて評価することおよび保健指導の実際のプロセスの検討をバリエーション分析手法を用いて実施することを進めている。今年度は3か月後の結果として、アウトカム評価では保健指導レベルが改善されていたこと、プロセス評価では栄養のバランスを考えてとるが介入群で有意に改善していた。しかし前提要因での「今のままでは自分が病気になるという危機感はない」者が増加しており、今後のバリエーション分析によって行動変容を妨げる因子を明らかにししていく必要がある。

(巽あさみ, 野澤明子, 大塚敏子, 水田明子, 内野保都美, 荒木田美香子)

3. EBNに基づいた認知症高齢者のための日本型リスクマネジメントの開発と理論化

(1) 転倒リスクマネジメントに関する全国調査

全国の高齢者施設における転倒リスクマネジメントの状況を把握するために全国調査を実施した。有効回答率は30.3%, リスクマネジメントの取り組みについては、各施設の8割以上が委員会を設置し、事故報告書(インシデントレポート)の提出などの取り組みをしたが、リスクマネジメント委員会があっても身体拘束が実施されていたり、包括的な転倒リスクアセスメントが十分なされていないなどの課題も明らかになった。

(鈴木みずえ, 奥百合子, 常田佳代)

(2) 認知症高齢者の転倒予防に関するアクションリサーチ

研究認知症高齢者の転倒の要因やその対策方法などを分析し、認知症に関連した症状に転倒の要因とその予防について検討した。しかしながら、認知症高齢者の転倒の要因の個性が高いために転倒者の数軽減することはできなかったが、複数転倒は減少することができました。本研究によるアクションリサーチ法を用いた転倒予防介入は、ケアスタッフの転倒予防に関する有能感は向上した。

(鈴木みずえ, 倉田貞美, 安田孝子, 牧野公美子, 山本恵美子)

(3) 認知症高齢者の転倒予防のためのヒッププロテクターの開発

平成16年に試作品を認知症高齢者に使用、転倒率の軽減を報告した。本年度は転倒用ダミーに装着し、衝撃吸収試験など工学的検査にて基礎実験を実施し、有効であることを実証した。

(斎藤真, 松岡敏生, 鈴木みずえ)

4. 認知症ケアマッピングを用いたパーソン・センタード・ケアに関する介入の効果

認知症ケアマッピングを定期的実施し、結果をフィードバックしてパーソン・センタード・ケアに関する介入を行った。その結果、認知症高齢者のQOL尺度の「対処困難行動のコントロール」が介入前に比べて有意に改善し、「行動障害」, 「攻撃性」, 「不安」は有意ではないが改善の傾向を示した。ケアスタッフの認知症ケアに対する意識も有意に改善した。以上の結果からパーソン・センタード・ケアに取り組むことでスタッフの認知症に対する意識の改善や認知症高齢者の生活の質に対して良好な影響を及ぼすことが示唆された。

(鈴木みずえ, 水野裕, Dawn Brooker)

5. 高校生の喫煙関連要因の検討および喫煙防止教育介入の効果に関する研究

高校生を対象に対して行った喫煙防止介入の前後および6ヶ月後の調査を分析し、喫煙行動の関連要因について将来の喫煙行動のリスク別に検討した。結果、喫煙行動の中リスク群は、非喫煙者ではあるが既に喫煙を開始している高リスク群に近い傾向を持っていることが示唆され、高等学校で行われる集団的な喫煙防止教育ではこれら中リスク群の特徴を考慮した教育内容が必要であるとの結果を得た。より効果的なプログラムについて現在検討中である。

(大塚敏子)

15 新聞、雑誌等による報道

1. 鈴木みずえ，介護50話 10話：転倒，骨折を防ぐ，毎日新聞，平成20年6月16日
2. 鈴木みずえ，介護50話 11話：生活の充実につなげる，毎日新聞，平成20年6月23日